

企画県土警察常任委員会資料

(平成22年7月21日)

- 1 全国知事会議等の概要について【企画課】 . . . 別紙
- 2 鳥取環境大学改革案評価・検討委員会の検討状況について
【青少年・文教課】 . . . 1ページ
- 3 地上デジタル放送への完全移行(H23/7)に係る1年前の状況について
【情報政策課】 . . . 5ページ
- 4 第3次鳥取県男女共同参画計画の策定について
【男女共同参画推進課】 . . . 7ページ
- 5 「鳥取力」創造運動推進事業の取組状況 について
【協働連携推進課】 . . . 9ページ
- 6 「米子鬼太郎^{きたろう}空港命名記念イベント」の開催について
【交通政策課】 . . . 15ページ
- 7 平成21年度若桜鉄道株式会社の営業報告について
【交通政策課】 . . . 16ページ
- 8 JR山陰本線「新・余部橋りょう」完成記念式典等について
【交通政策課】 . . . 17ページ

企 画 部

平成22年7月21日
青少年・文教課

鳥取環境大学の改革に向けた取組みを検証するとともに、設置形態も含め、大学のあり方についての検討を行うため、県と鳥取市が共同で、外部の有識者をメンバーとする鳥取環境大学改革案評価・検討委員会を設置しました。

これまでの検討状況について、次のとおり報告します。

1 委員会の検討状況

(1) 第1回検討委員会（6月28日）

【概要】

○委員長選出

委員長 秦野一憲 鳥取県経済同友会代表幹事

委員長代理 中永廣樹 鳥取県育英会理事長

○鳥取環境大学の改革案について

環境大学から改革案の説明の後、委員による議論

○今後の進め方について

・スケジュール、論点整理等の摺り合わせ

・県民の意識把握のため、「鳥取環境大学のあり方に関するアンケート」の実施を決定

【対象】 高校生、保護者、高校教員、企業、県民

【実施時期】 7月中

☆鳥取環境大学の改革案について意見交換

(主な意見)

- ・入学生減少の原因は、授業料に問題があったのか、学部学科に問題があったのか。
- ・保護者として学費は重要。大学の魅力にかかってくる。
- ・大学は身近の大きな存在。学生が減るのは寂しい。
- ・卒業生の就職先の受け皿が重要。
- ・鳥取にある大学として地域との連携が必要。
- ・地域に根ざした問題をプロジェクトを組んで解決するという手法は大切。
- ・「大学は私たちの財産だから、それだけの負担なら」という県民意識が必要。
- ・環境大学は全県的な問題であるという意識をどう導くのが問題。
- ・企業との接点が見えない。鳥取大学は西部でも企業と接点がある。
- ・県内企業に「県内の学生をとろう」という意識はまだ低いのではないか。
- ・米子地区にとって環境大学は遠い存在。
- ・西部の中学、高校との連携も必要。
- ・公立化ありきではなく、改革案の検討と同時に考えるべき。
- ・私立で継続する可能性よりも公立化を柱として考えた方がよい。
- ・公立化は設置者の財政状況にしばられた運営となる。

(2) 第2回検討委員会（7月11日）

【概要】

○各委員、アドバイザーからの情報提供

大学に係る各委員、アドバイザーから全国の大学経営を巡る状況や自らの取組み等について情報提供いただき、環境大学改革案に対するコメントをいただいた。

○改革案の検証・今後の大学のあり方について議論

・第1回検討委員会質疑事項に関して、環境大学から補足説明

・議論の参考となる事務局資料を説明の後、委員による議論

☆委員、アドバイザーからの情報提供

○近年の進学動向〔(株)リクルート 小川委員〕

- ・地元国公立大学が人気。2010年度入試では、国立志願者2%増、公立6%増。より柔軟な教育内容を展開できる公立大の志願者が増加。
- ・大学の入学式や卒業式の参加にみられるように、子どもの進学先の選択における保護者の関わりが高まっており、8割の保護者が自ら大学の情報を収集している(しようとしている)。
- ・経済的な事情から保護者の国公立志向が高まっている。高校教員も国公立を勧める。
- ・リクルートの調査では、環境科学系学部の志願者数は成長・成熟期にあり、経営系学部は、近年志願者を増やしている。今後志願者の増加が予想される分野は、グローバル課題対応型、就職イメージ直結型、有名大学・就職重視志向分野。

○私立大学における魅力向上のための取組み〔明治大学 福宮委員〕

- ・明治大学商学部は、専門演習の複数化(ダブル・コア化)、多言語4年間一貫教育、商学実践店舗の展開や本田技研工業と連携した実践科目の設定、広報活動の重視など、学部長が先頭に立った改革を行い、3年間で志願者が約8,500人増。(H17. 9,177→H20. 17,675)
- ・改革の取組みが他学部にも波及し、明大は2010年度入試で志願者全国一となった。
- ・持続可能な競争力を備えた学部とするため、入り口から出口までの総合戦略が必要。
- ・ターゲット・エリアを県内から全国、グローバルへと拡大して検討することが必要。

○近年の環境分野の教育・研究の動向〔京都大学大学院 植田委員〕

- ・低炭素社会、自然共生社会、循環型社会が環境分野の3本柱。食、農、エネルギーなどの隣接領域との融合や地域の実情に合わせた取組みを行うこと。
- ・環境問題を追求するだけでなく、エコツーリズム、6次産業化など雇用につなげることが重要。
- ・今や、グローバルな問題が地域のニーズと重なっており、学生は中山間地や地域の商店街での実践教育に関心が高く、現場での実践教育を重視すべき。
- ・文理融合の考えはよいが、実際には簡単ではない。

○県立大学の経営〔岡山県立大学 中田委員〕

- ・公立大学は設置自治体の財政状況に大きく影響を受ける。岡山県立大学では、平成20年6月の県の財政危機宣言に伴い、21年度から県に準じた人件費カットを実施。
- ・収入34億のうち、県からの運営費交付金が21億を占める。支出の62%は人件費。
- ・公立大学法人化で県への協議が不要となり、運営の自由度が高まった。

○全国の私立大学の経営状況〔日本私立学校振興・共済事業団 田辺アドバイザー〕

- ・私立大学の収入のうち、79%は学生等納付金(授業料等)。少子化に伴い、私立大学の経営環境は悪化。47%の大学が定員割れで、40%が赤字。
- ・特に入学定員800人未満の大学は厳しい。
- ・私大全体としては106%の充足率。大規模校が定員を超過して入学させている。
- ・地方で特色ある教育に取り組み、頑張る大学もある。

☆改革案の検証・今後の大学のあり方について意見交換

(主な意見)

- ・大学があることによる地域への経済効果はどの程度か。
- ・経済効果から見ると県外から学生を呼んで欲しい。
- ・ある程度の人数を揃えなければ大学として活気がなくなる。
- ・全国に比べ、鳥取県の進学率が伸びていないのはなぜか。
- ・なぜ2学部なのか。1学部体制ではいけないのか。
- ・経営学科にどれだけ学生が集められるのか。
- ・就職の受け皿がないとだめだ。
- ・環境大学が私学として生き残るため、どれだけの努力をしてきたのか。
- ・大学としてこうするといった具体的な案がないと議論が深まらない。
- ・中部、西部を含め県全体として環境大学を位置づける必要がある。

2 今後の検討スケジュール

開催回	開催日
第3回検討委員会	8月5日(木) (13:30~16:30)
第4回検討委員会	8月下旬
第5回検討委員会	9月上旬

鳥取環境大学改革案評価・検討委員会について

1 趣 旨

公設民営（鳥取県・鳥取市が設立）の鳥取環境大学は「鳥取環境大学学部・学科改編の基本構想（第1次中間報告）」を5月27日に理事会でとりまとめ、その後、鳥取県知事並びに鳥取市長に対し改革の取り組みを報告し、併せて公立化の検討について要望した。

鳥取県・鳥取市は、この報告・要望を受け、大学から示された改革の取り組みを検証するとともに、設置形態も含め、今後の環境大学のあり方について検討を行うため、外部の有識者をメンバーとする本委員会を設置する。

2 検証・検討の内容

- 鳥取環境大学の学部・学科改編の基本構想についての検証
- 鳥取環境大学の経営改善への取組及び運営の改革についての検証
- 設置形態を含めた、今後の鳥取環境大学のあり方の検討
- その他鳥取環境大学の今後のあり方の検討を行うために必要な事項

<参考1：鳥取環境大学における改革の取り組み検討経過（主なもの）>

- 1月28日 鳥取環境大学改革検討委員会報告書とりまとめ（H20年5月検討開始）
- 2月 9日 学部・学科改編等準備委員会設置
- 2月25日 大学運営改革委員会設置
- 5月27日 鳥取環境大学学部・学科改編の基本構想とりまとめ

<参考2：鳥取環境大学の概要>

- 平成13年4月創立
- 鳥取県・鳥取市が設立し、学校法人鳥取環境大学が運営する公設民営方式
- 環境情報学部
 - 環境政策経営学科（定員99名）、環境マネジメント学科（定員99名）
 - 建築・環境デザイン学科（定員39名）、情報システム学科（定員39名）
- 平成22年度入学者数 149名（定員276名の54%）
- 平成21年度単年度収支差額 △485百万円
（減価償却引当343百万円を除いたキャッシュベースでも△142百万円）

鳥取環境大学改革案評価・検討委員会名簿

【委員】

区 分	職 名 等	氏 名
大学経営 有識者	明治大学リバティールアカデミー副アカデミー長	福宮 賢一
	岡山県立大学副理事長兼事務局長	中田 哲
環 境 有識者	京都大学大学院教授	植田 和弘
	NPOえこままとっとり主宰	山本ルリコ
教育・進学 関係者	鳥取県育英会理事長	中永 廣樹
	県PTA協議会理事	上山 弘子
	㈱リクルート中国支社長	小川 一平
経 済 界	鳥取商工会議所副会頭	清水 昭允
	倉吉商工会議所副会頭	吉田 圭子
	鳥取県経済同友会代表幹事	秦野 一憲
行 政	鳥取県副知事	藤井 喜臣
	鳥取市副市長	深澤 義彦

【アドバイザー】

職 名 等	氏 名
日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター経営支援室室長	田辺 和秀

【オブザーバー】

職 名 等	氏 名
鳥取環境大学学長	古澤 巖

〔大学関係者〕

鳥取環境大学常務理事	谷口 博繁
------------	-------

〔事務局〕

鳥取県企画部長	高橋 謙司
〃 企画部参事監	今岡 良
〃 企画部青少年・文教課長	太田 裕司
鳥取市企画推進部長	松下 稔彦
〃 企画推進部企画調整課長	高橋 慶治

地上デジタル放送への完全移行(H23/7)に係る1年前の状況について

平成22年7月21日
情報政策課

1 送信対策

(1) デジタル中継局の整備(実施主体:放送事業者)

(NHK鳥取放送局資料による)

整備年次	整備数	カバー世帯数(カバー率)	中継局名(所在地)
18	2	139,109(66.7)	米子(松江市)、鳥取(鳥取市)
19	8	184,124(88.3)	岩美(岩美町)、若桜(若桜町)、用瀬(鳥取市)、智頭(智頭町)、鉢伏(湯梨浜町)、倉吉(倉吉市)、郡家(八頭町)、河原(鳥取市)
20	6	187,200(89.8)	香取(大山町)、米子日南(日南町)、三朝(三朝町)、佐摩(大山町)、中日野(日野町)、佐治(鳥取市)
21	4	188,505(90.4)	円護寺(鳥取市)、溝口(伯耆町)、那岐(智頭町)、山形(智頭町)
22	6	189,584(90.9)	倉吉八幡(倉吉市)、日野(日野町)、鹿野小鷲河(鳥取市)、米子飯山(米子市)、下榎(日野町)、鳥取滝山(鳥取市)

(2) ケーブルテレビの整備(実施主体:市町村等)

(鳥取県ケーブルテレビ協議会資料による)

整備年次	カバー世帯数(カバー率)	備 考
~19	196,975(92.3)	—
20	201,071(94.3)	岩美町内供用開始後(22年5月開始済)の数値
21	206,805(96.9)	八頭町内・若桜町内供用開始後(23年春開始予定)の数値

2 受信対策

(1) 辺地自主共聴施設のデジタル化対応(実施主体:テレビ共聴組合) (総務省公表資料による、22年3月末現在)

施設数	対応済数(進捗率)	改修予定施設	ケーブルテレビ移行予定施設	戸別受信移行
102	53(52)	25	22	2

(2) 「新たな難視」世帯の解消(実施主体:各受信世帯)

(総務省公表資料による、22年1月末現在)

市町村名	地区数	世帯数	対策方針案(国、放送事業者により検討されているもの)
倉吉市	2	9	ケーブルテレビ移行
岩美町	2	3	ケーブルテレビ移行
若桜町	2	22	ケーブルテレビ移行
八頭町	1	14	ケーブルテレビ移行
南部町	3	4	ケーブルテレビ移行、高性能アンテナ設置
日野町	6	62	共聴施設新設、高性能アンテナ設置
6	16	114	—

(3) 県民に対する周知(実施主体:総務省テレビ受信者支援センター(デジサポ鳥取))

受信機買換え、アンテナ改修等について、デジサポ鳥取が、説明会や戸別訪問等を実施中

(参考)22年3月に行われた「浸透度調査」結果(全国抽出調査=サンプル数:12,875)

- ・アナログ放送停波認知度:96.6% ・停波時期認知度:91.3%
- ・受信機世帯普及率:83.8%(県内受信機世帯普及率:86.0%(サンプル数:207、全国9位))
- ・受信機器を保有しない理由:まだ時間的余裕がある、経済的余裕がない 等

(4) 集合住宅共聴施設及び受信障害対策共聴施設のデジタル化対応(実施主体:施設所有者、管理者)

デジサポ鳥取が、対象施設の把握や施設管理者等への働きかけを行っている

(総務省公表資料による、22年3月末現在)

施設種別	施設数	対応済数(進捗率)	備考
集合住宅共聴施設	5,155	4,710(91.4)	—
受信障害対策共聴施設	51	22(43.1)	届出施設ベース

(5) 経済的困窮世帯へのチューナー無償給付支援制度の周知(実施主体:総務省チューナー支援実施センター)

支援実施センターが、市町村等の協力を得ながら対象世帯の把握や周知を行っている(全額国庫)

※22年6月末現在の申込件数 3,800件(同センターからの情報提供)

(支援対象世帯) 次のいずれかに該当し、NHKの受信料が全額免除の世帯

- ・生活保護などの公的扶助を受けている世帯
- ・障がい者がいる世帯で、かつ世帯全員が市町村民税非課税の措置を受けている世帯
- ・社会福祉事業施設に入所されていて自らテレビを持ち込んでいる世帯

3 県の対応

(1) 国要望

中継局整備促進、受信対策における国庫補助拡充等について、県として要望(「平成23年度国の施策等に関する提案・要望」)するとともに、全国都道府県等と連携して要望活動を行っている

(2) 補助制度

- 送信対策への支援 ・民放地上デジタル放送中継局整備支援事業 ・県内ブロードバンド100%推進事業
- 受信対策への支援 ・地上デジタル放送受信支援事業

(3) 広報

- 県政だより(2009年7月号・2010年7月号) ○新聞お知らせ(2009年10月8日日本海新聞等)
- 県庁前電光掲示板(2009年7月17日～31日、2010年7月9日～31日)

(4) 県施設のデジタル化

- 県庁舎のテレビ受信設備は改修済み、県庁舎以外の県施設(176施設)は、昨年度受信可否調査を行い、併せて地デジチューナーを配布済み(受信不可36施設について各施設に速やかな対応を依頼中)
- 県管理の受信障害対策共聴施設のうち未対応施設(15施設)について各所管課に速やかな対応を依頼中

(5) 関係諸機関との連絡調整

国、放送事業者、デジサポ、チューナー支援センター、市町村等と連携し、上記諸課題への対応を行っている

第3次鳥取県男女共同参画計画の策定について

平成22年7月21日

男女共同参画推進課

第2次鳥取県男女共同参画計画の計画期間は平成24年3月までとなっており、引き続き男女共同参画社会の実現を目指し、取り組みを推進していくため、第3次鳥取県男女共同参画計画を策定する。

1 これまでの経緯

平成12年 鳥取県男女共同参画推進条例制定

平成13年 鳥取県男女共同参画計画策定（計画期間；平成13年度～18年度）

平成19年 第2次鳥取県男女共同参画計画策定（計画期間；平成19年度～23年度）

2 第3次計画の内容

(1) 計画期間

平成24年度～平成28年度（5年間）

(2) 策定根拠

男女共同参画社会基本法第14条第1項及び鳥取県男女共同参画推進条例第8条第1項の規定に基づく計画

3 策定体制

(1) 鳥取県男女共同参画審議会（委員20名）

審議会6回、分科会3回程度開催を予定

(2) 鳥取県男女共同参画行政推進会議（座長；副知事、委員；各部局長等）

4 策定スケジュール

別紙のとおり

第3次鳥取県男女共同参画計画策定のスケジュール

年 月	審 議 会	備 考
22年度		
7月	第1回【知事から審議会へ諮問】 (7/6) 2次計画の現状、課題等	
	↓	
8月	第2回 計画策定の体制、方向性について議論	
	↓	
9月	<分科会開催(3回程度)>	
	○関係課及び関係団体等とのヒアリング ○論点整理 ○重点目標、盛り込むべき課題等整理	
12月		
1月	第3回 計画全体の体系整理	
	↓	
2月	第4回 中間報告(案)作成、調整	
23年度		
5月		
6月	【中間報告の公表】	
	↓	
7月	パブリック・コメント	
8月	第5回 答申(案)の審議 第6回 答申内容決定	
11月		
	↓	
12月	【審議会から知事へ答申】	
	↓	
2月	答申を受けて、行政推進会議で計画案の取りまとめ	
	↓	
	【第3次鳥取県男女共同参画計画の議会議決】	

「鳥取力」創造運動推進事業の取組状況について

平成22年7月21日
協働連携推進課

将来ビジョンで描く「活力・あんしん鳥取県」の実現に向け、「鳥取力」創造運動を推進していますが、現在の取組状況は以下のとおりです。

「鳥取力」創造運動推進のための取組、方針

- ・ 県民、NPO、住民団体、事業者などの様々な主体が連携し、地域の特性を生かした魅力ある地域づくりに取り組む活動の支援
- ・ 機運の醸成、ネットワークづくりや人材育成などの取組

1 「鳥取力」創造運動推進プロジェクトチーム (PT) の設置

(1) 目的

実際の活動団体の事業運営にプロジェクトチームのメンバーが携わり、課題等の情報を持ち帰って検討材料とし、意見交換を行いながら、様々な活動団体に対応した運営のための方策・方向性を打ち出すため設置。

(2) メンバー、活動テーマ

(別紙1参照)

(3) スケジュール

- ・ 7月12日(月)に第1回PTを開催し、今後の進め方等について協議
- ・ 11月を目途に地域づくり活動の方策、方向性に係る提言等をまとめ、次年度予算等に反映

2 「鳥取力」創造運動支援補助金の採択・申請状況等

(1) 一次募集(4/14~5/14)の審査結果(別紙2参照)

- ① スタートアップ型 応募件数：31件 採択件数：23件 (60%以上の得点を得た事業を採択)
- ② 発 展 型 応募件数：13件 採択件数：3件 (特に高い評価を得た3事業を採択)

(2) 二次募集(6/15~7/9)の応募状況

- ① スタートアップ型 応募件数：38件
- ② 発 展 型 応募件数：18件

(3) 今後の予定

- 二次募集審査会 7月29日(木)
- 三次募集 9月1日(水)~9月30日(木)
※スタートアップ型のみ(採択予定：10件程度)

(4) 当面の対応

- ・ 二次募集でも多くの申請をいただいております、また、今後、三次募集も実施すること
- ・ 鳥取力創造運動推進基金の運用益が当初見込みより多く見込まれること
⇒ 運用益の範囲内で採択数の増を検討
 - スタートアップ型：全体50件程度⇒60件程度(10件程度増)
 - 発展型：全体5件程度⇒10件程度(5件程度増)

<参考>

・ 鳥取力創造運動推進基金の運用益 当初予算額 12,000千円

見込み 16,500千円

※ 当面は規定予算内で対応し、決定状況を見ながら補正対応

【鳥取力創造運動支援補助金の概要】

(単位：千円)

区 分	予算額	内 容
スタートアップ型	5,076	新たな取り組み、これまでの取り組みの拡充、試行的な取り組みなどを対象に公募し、採択された事業を支援 ○ 補助金額: 上限10万円(補助率 10/10)、50団体程度 ○ 1次募集、2次募集、3次募集
発 展 型	5,076	発展型の取り組みで他のモデルとなる活動を対象に公募し、採択された事業を支援 ○ 補助金額: 上限100万円(補助率 3/4)、5団体程度 ○ 1次募集、2次募集
計	10,152	

【審査員（5名）】

野田邦弘 鳥取大学地域学部 教授
 田中仁成 新日本海新聞社 執行役員営業局長
 中村順子 コミュニティ・サポートセンター神戸 理事長
 倉持裕彌 とっとり地域連携・総合研究センター(TORC) 主任研究員
 門脇誠司 協働連携推進課長

3 「鳥取力」創造運動の推進に向けたPR、機運醸成などの取組状況

区 分	内 容
「鳥取力」創造運動PR	◆マスコミとのタイアップによる活動状況等の発信 [取組状況] ○日本海新聞と契約し、4月より実施（現在4回掲載） ◆応援・情報サイト(ホームページ)の開設 [取組状況] ○10月中の開設に向けて準備中
「鳥取力」実践団体登録制度	「鳥取力」創造運動に取り組む活動団体等を幅広く募集し、県が「鳥取力」実践団体として登録し、ネットワークづくりを行う [取組状況] ○7月下旬の募集開始に向けて準備中

「鳥取力」創造運動推進プロジェクトチームで参加する活動一覧

区分	申請団体	事業名	事業概要	担当所属
発展	若桜鉄道「単駅を守る会」 (会長 西村昭二)	単駅活性化プロジェクト	<p>単駅を核としたイベント等を実施し、利用促進を図るとともに、乗車運動に寄与する。また、オートバイのライダーとの交流により、地域活性化に結びつけ、新たな観光スポットとして全国発信するとともに、地域資源を活かしたまちづくりを進める。</p> <p>【実施日】H22.8月～H23.2月 【場所】若桜鉄道沿線(八頭町) 【内容】 ○単駅まつり、若桜鉄道沿線を歩こう会等のイベントの開催 ○交流館の整備など拠点・周辺環境の整備</p>	八頭総合事務所 県民局企画県民課 協働連携推進課
発展	県境なき牛団 (団長 河下哲志)	「県境なき牛団鳥取」	<p>和牛発祥の地ともいわれる鳥取県において、ホルソバや牛骨ラーメンといった牛に関連した独自の食文化を全国に発信するとともに、全国各地の牛関連「B級グルメ」をネットワーク化し、もって「食のみやこ鳥取県」を全国発信しようとするもの。</p> <p>【実施日】通年 【場所】鳥取県内(鳥取市) 【内容】 ○「とっとりホルソバ」の情報発信 ○「牛」に関連した全国のご当地B級グルメの情報拠点作り ⇒webサイト開設 ○「牛」に関連した全国のご当地B級グルメが楽しめる場所作り ⇒イベント開催</p>	食のみやこ推進課 県政推進課
発展	ひょうたん島実行委員会 (実行委員長 竹内房男)	鳥取版びっくりひょうたん島	<p>湖山池の水質改善、環境保全のため、湖山池クルージングなどのイベントの実施により、地域資源に対する認識を高め、保全活動の必要性等について啓発を図るもの。</p> <p>【実施日】H22.7月～8月 【場所】湖山池周辺(鳥取市) 【内容】 ○湖山池クルージング ○無人島探検 ○湖山池周辺に自生する竹やヨシを利用した工作</p>	東部総合事務所 県民局県民課 生活環境局 環境・循環推進課 協働連携推進課
スタートアップ	NPO法人 一粒の麦 (理事長 井上零子)	「あんしんすこやかさろん 一粒の麦」	<p>家にこもりがちな高齢者や障がい者の方を対象に、井戸端的サロンを開催し、楽しみ等生きがいづくりを応援</p> <p>【実施日】H22.4月～ 【場所】団体事務所 【内容】 ○井戸端サロン ○料理教室、版画、折り紙教室の開催</p>	中部総合事務所 県民局県民活動課 福祉保健局 福祉支援課 福祉保健課
スタートアップ	とっとり・なんぶ手自然ネットワーク (代表 井田真樹)	衣類と大地を繋ぐ里山体験プロジェクト	<p>鳥取県の在来品種「伯州綿」の栽培から、糸繰り、製品化までの過程を学習し、暮らしの中にある綿製品と、大地との繋がりを体感する</p> <p>【実施日】H22.5月～H23.1月 【場所】南部町内 【内容】 ○綿の栽培・加工体験(4回実施)</p>	西部総合事務所 県民局企画県民課 米子農業改良普及所 生産振興課

「鳥取力」創造運動支援補助金(スタートアップ型)提案事業 審査結果(一次募集採択事業)
 【スタートアップ型】 予算額 5,000,000円 一次募集採択額 2,300,000円(採択件数23件)

区分	順位	申請団体	事業名	事業内容
採択	1	浅見集落振興協議会	浅見谷川の流木撤去	【実施日】H22.6.24、7.4 【場所】智頭町浅見谷川一帯 【内容】 ○草木・流木の除去 ○暖房用薪の制作 ○看板設置
採択	2	因幡の山と里	地域間交流で源流の森の持つ魅力を伝えようプログラム	【実施日】H22.7月 【場所】智頭町芦津溪谷 【内容】 ○シャワークライミング安全講習およびガイド技術練習
採択	3	とっとり・なんぶ手自然ネットワーク	衣類と大地を繋ぐ里山体験プロジェクト	【実施日】H22.5月～H23.1月 【場所】南部町内 【内容】 ○綿の栽培・加工体験
採択	4	里山地域研究会	米糠パワー食品開発販売事業	【実施日】通年 【場所】三朝町内 【内容】 ○米糠をつかった食品の開発
採択	5	HugHug	ハグして育む親子プロジェクト	【実施日】H22.6月～11月 【場所】米子市内、伯耆町内ほか 【内容】 ○臨床心理士による講演 ○ワークショップ ○キャンプ場での遊びの実践
採択	6	用瀬町遺産研究会	古民家を活用したアートパフォーマンス	【実施日】H22.10月～11月 【場所】用瀬町屋住地内 【内容】 ○空き家古民家の清掃 ○芸術作品展示 ○ヘアカットパフォーマンス
採択	7	河内おどり隊	2010とっとり手踊り・手傘踊りの集い	【実施日】H22.10.3(土) 【場所】安蔵森林公園、安蔵公園スキー場(鳥取市河内) 【内容】 ○手踊り、手傘踊り披露 ○手打ちそば体験、 ○ブルーベリージャム作り体験
採択	8	鳥取おこしフクシンプロジェクト	鳥取おこしフクシンプロジェクト	【実施日】H22.7月～ 【場所】鳥取市用瀬町内 【内容】 ○人材バンクの立上げ ○農作業体験、民泊体験など
採択	9	山王さん周辺活性化協議会	水質浄化用繁殖いかだによる湖山池の水質浄化	【実施日】H22.6月～ 【場所】湖山池 【内容】 ○新規苗の購入、いかだへの植付け ○維持管理、清掃作業
採択	10	大江バンブーエコサークル	大江地区高齢者活性化プロジェクト	【実施日】H22.5月～11月 【場所】八頭町大江川近辺休耕田ほか 【内容】 ○耕作放棄地での新たな特産物づくり
採択	11	たからやお化け屋敷”惨”	たからやお化け屋敷”惨”	【実施日】 【場所】倉吉市内 【内容】 ○お化け屋敷を地元高校生などが運営・実施することにより、郷土への愛着と熱意を育む
採択	12	トライ・トリビュートプロジェクト	中海一周計画	【実施日】H22.8.13～8.14 【場所】中海周辺 【内容】 ○中海の魅力を再認識するための中海徒歩一周事業

区分	順位	申請団体	事業名	事業内容
採択	13	一粒の麦	「あんしんすこやかさろん 一粒の麦」	【実施日】H22.4月～ 【場所】団体事務所 【内容】 ○井戸端サロン ○料理教室、版画、折り紙教室の開催
採択	14	琴浦町「牛乳で地域おこし」プロジェクト	琴浦町「牛乳で地域おこし」プロジェクト	【実施日】H22.6月～ 【場所】琴浦町内ほか 【内容】 ○「初乳石けん」の開発 ○牛乳を使った料理を展開 ○鳥取県の牛乳をPR
採択	15	金田川ホテルの里	「金田川ホテルの里」にてホテル鑑賞会とホテルコンサート実施	【実施日】H22.6.12(土) 【場所】南部町金田地区内 【内容】 ○ホテルコンサート ○バザー、飲食物の販売 ○竹筒提灯、手づくり行燈の点灯
採択	16	内海山里守る会	内海山里守る会による地域活性化プロジェクト	【実施日】H22.7月～12月 【場所】鳥取市内海中地区内ほか 【内容】 ○鳥獣防護策等の設置、勉強会 ○植栽等地域の景観整備 ○イベントへの参加
採択	17	佐治町の文化遺産を大切にする会	佐治町内の史跡・文化財の学習、保存、活用事業	【実施日】H22.4月～12月 【場所】佐治町内史跡ほか 【内容】 ○史跡・文化財学習会 ○ボランティアガイド学習会 ○町内文化財・史跡清掃
採択	18	トライ・トリビュートプロジェクト	ラジオ番組制作	【実施日】H22.7月～ 【場所】県外各地で収録 【内容】 ○鳥取県出身の若者の郷土への思いを県外各地で番組コンテンツ収録し、DARAZ FMIに提供
採択	19	白鳳の郷地域活性化協議会	地域の宝マップの製作	【実施日】H22.6月～11月 【場所】地域内 【内容】 ○地域住民交流と地域の宝の伝承のため、地域の史跡・文化財等のマップ作成、活用
採択	20	若葉台地区青少年育成協議会	「みんなで考える子育て・まちづくり」講演会	【実施日】H22.9.11(土) 【場所】若葉台小学校体育館 【内容】 ○子育ての第一人者による講演会
採択	21	鳥取県車いすテニス普及協会設立準備委員会	障がい者スポーツを通じて、障がいの共通認識を持ち、共生社会を構築する会	【実施日】H22.6月～9月 【場所】県立障害者体育センター、皆生養護学校ほか 【内容】 ○車いすテニスの勉強会・選手との意見交換会
採択	22	永江地区安全・安心なまちづくり協議会	安全・安心な地域づくり(特に、支え合う地域づくり)事業	【実施日】通年 【場所】地域内 【内容】 ○福祉マップの完成 ○地域パトロール隊の拡充 ○子ども育成団体事業の継続実施
採択	23	鳥取県自然体験塾	地域資源を活かすエコツーリズムシンポジウム	【実施日】H23.1月下旬 【場所】鳥取県東部地域 【内容】 ○地域資源を活かすエコツーリズムシンポジウム

「鳥取力」創造運動支援補助金(発展型)提案事業 審査結果(一次募集採択事業)
 【発展型】 予算額 5,000,000円 一次募集採択額 2,990,375円(採択件数3件)

区分	順位	申請団体	事業名	事業概要
採択	1	若桜鉄道「隼駅を守る会」 (会長 西村昭二)	隼駅活性化プロジェクト	隼駅を核としたイベント等を実施し、利用促進を図るとともに、乗車運動に寄与する。また、オートバイのライダーとの交流により、地域活性化に結びつけ、新たな観光スポットとして全国発信するとともに、地域資源を活かしたまちづくりを進める。 【実施日】H22.8月～H23.2月 【場所】若桜鉄道沿線 【内容】 ○隼駅まつり、若桜鉄道沿線を歩こう会等のイベントの開催 ○交流館の整備など拠点・周辺環境の整備
採択	2	県境なき牛団 (団長 河下哲志)	「県境なき牛団 鳥取」	和牛発祥の地ともいわれる鳥取県において、ホルソバや牛骨ラーメンといった牛に関連した独自の食文化を全国に発信するとともに、全国各地の牛関連“B級グルメ”をネットワーク化し、もって「食のみやこ鳥取県」を全国発信しようとするもの。 【実施日】通年 【場所】鳥取県内 【内容】 ○「とっとりホルソバ」の情報発信 ○「牛」に関連した全国のご当地B級グルメの情報拠点作り ⇒webサイト開設 ○「牛」に関連した全国のご当地B級グルメが楽しめる場所作り ⇒イベント開催
採択	3	ひょうたん島実行委員会 (実行委員長 竹内房男)	鳥取版びっくりひょうたん島	湖山池の水質改善、環境保全のため、湖山池クルージングなどのイベントの実施により、地域資源に対する認識を高め、保全活動の必要性等について啓発を図るもの。 【実施日】H22.7月～8月 【場所】湖山池周辺(鳥取市) 【内容】 ○湖山池クルージング ○無人島探検 ○湖山池周辺に自生する竹やヨシを利用した工作

「米子鬼太郎^{きたろう}空港命名記念イベント」の開催について

平成22年7月21日
交通政策課

空港の活性化・利用促進の一環として、4月26日に米子空港の愛称を「米子鬼太郎^{きたろう}空港」と命名し、鬼太郎の全国的な人気と知名度を活かして、県外での街頭宣伝や旅行雑誌等により、山陰の観光や路線のPRを行っています。

今後、さらに米子鬼太郎^{きたろう}空港を全国に向けて強力かつ加速的にアピールしていく皮切りとして、次のとおり水木しげる氏を招待し「米子鬼太郎^{きたろう}空港命名記念イベント」を開催します。

1 日 時 平成22年7月24日（土）午後1時30分～午後2時30分

2 場 所 米子空港ビル2階催事場

3 内 容

- (1) 主催者挨拶
- (2) 祝辞
- (3) 水木しげる氏によるキャラクターデザインの披露
- (4) 空港内外の装飾、造形物の披露
 - ・立体オブジェ、ロゴマーク入り横断幕、屋外サイン及びエプロン側サイン
 - ・空港内賑わいづくりの紹介
- (5) 式典前後のイベント
 - ・映像による世界及び国内愛称空港の紹介
 - ・妖怪着ぐるみによる記念撮影
 - ・鬼太郎とじゃんけん大会 など

4 主催者 米子空港利用促進懇話会、鳥取県

5 その他

- 当記念イベントに続き、県外でのPRイベントとして、首都圏・中京圏の空港等で鳥取県の観光PRとからめて米子鬼太郎^{きたろう}空港の宣伝を行う予定。
- 県管理の国・県道の「米子空港」案内標識を「米子鬼太郎^{きたろう}空港」に7月上旬から修正に着手し、国道431号及び県道米子境港線においては修正完了。県以外が管理する道路標識については各道路管理者に修正を要請した。

平成21年度若桜鉄道株式会社の営業報告について

平成22年7月21日
交通政策課

昨年4月1日に全国初の上下分離方式に移行した若桜鉄道株式会社の第23期定時株主総会が6月29日に開催され、平成21年度営業報告等が次のとおり承認されました。

1 平成21年度営業報告について

(1) 列車利用状況 (単位：人)

区分	H21年度	H20年度	差引増減
普通旅客	104,327	107,633	△3,306
通勤旅客	37,444	27,938	9,506
通学旅客	249,872	292,030	△42,158
計	391,643	427,601	△35,958

(2) 収支状況

① 営業損益

【収入】

(単位：千円)

区分	H21年度	H20年度	差引増減	備考
営業収入	87,051	90,303	△3,252	利用者の減少
保守管理受託費	52,259	0	52,259	上下分離に伴う町からの委託費
設備投資受託費	35,948	0	35,948	
その他受託費	7,219	0	7,219	ふるさと雇用事業による町からの委託費
計	182,477	90,303	92,174	

【支出】

(単位：千円)

区分	H21年度	H20年度	差引増減	備考
営業費用	187,789	152,973	34,816	修繕費(設備投資)の増

【差引営業損益】 △5,312千円

② 営業外損益

【収入】

(単位：千円)

区分	H21年度	H20年度	差引増減	備考
営業外収入	9,632	10,214	△582	売店売上の減

【支出】

(単位：千円)

区分	H21年度	H20年度	差引増減	備考
営業外費用	2,520	4,830	△2,310	SL修繕費の減

【差引営業外損益】 7,112千円

③ 経常利益 (営業損益+営業外損益)

1,800千円

2 利用促進について

SLや開業当時から現存する転車台等を利用した観光利用促進、割引率の高い企画キップの発売等による沿線住民の乗車運動の促進などの取組を引き続き進めていく。

- ・花見列車、風鈴列車等の企画列車の運行
- ・蒸気機関車の体験運転の実施
- ・SLや開業当時から現存する転車台等の見学団体ツアーの受入
- ・シルバー定期、ファミリーキップ等の企画キップの発売

J R山陰本線「新・余部橋りょう」完成記念式典等について

平成22年7月21日
交 通 政 策 課

J R山陰本線「新・余部橋りょう」は、8月12日に供用開始されます。これに併せて以下のとおり完成記念式典等が行われます。

1 開催日 平成22年8月12日(木)

2 内 容

(1) 出発式

開始時刻 午前6時20分～35分

場 所 余部駅

主 催 者 西日本旅客鉄道(株)

※主催者のみで行う始発列車(JR余部駅6:30発)の出発式

(2) 竣工修^{しゅうぼつ} 祓式

開始時刻 午前9時10分～午前10時

場 所 余部橋梁付近特設会場

主 催 者 西日本旅客鉄道(株)

※主催者、施工業者のみで行う神事

(3) 完成記念式典

開始時刻 午前10時25分～午前11時40分

場 所 余部橋梁付近特設会場

主 催 者 兵庫県、鳥取県、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、
鳥取県市長会、鳥取県町村会、西日本旅客鉄道(株)

※JR余部駅10:32発の上り列車に併せて久寿玉開披等のセレモニーを行う予定。

3 その他

余部橋りょうの架け替えを広く県民に周知し、新橋開通後のJ R山陰本線の利用促進を図るため、余部鉄橋に関する展示会を開催予定。

(日程) 8月7日(土)～8月16日(月)

(場所) 鳥取駅構内

(内容) 写真、余部を走った列車模型、工事関係資料、関連グッズ等の展示